

医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院
(第46号)

発行：令和3年8月2日(月)



院内の防犯対策について

防犯管理者 木元正徳



警備員巡回中

私は千葉県警察を定年退職後、平成29年4月1日より日本医科大学千葉北総病院の防犯管理者として勤務させて頂いております。当院には平成24年より千葉県警察OBが防犯管理者として勤務しており、私で3人目となります。

防犯管理者の業務は文字通り、病院を利用される方や、職員の安全安心を守り、病院業務の平穏な遂行を維持することが最大の目的であります。私はその目的の為、日々、院内外の巡回警戒、事案発生時の迅速な対応処理、警備員との緊密な連携を図り手薄な夜間・休日でも治安の間隙を生じさせないように努めています。どうしても当院のような大病院は防犯という視点で捉えた場合、非常に対策が難しくなります。病院という特質上、自由に出入りが可能であり、明らかな挙動不審者であればすぐに発見することができますが、ごく普通に面会者や患者、職員や業者を装い、違法な目的で侵入している不審者の発見は、なかなか難しいものがあります。しかし、このような不審者こそ大きな事件を起こす可能性があるという肝に銘じ、常に注意を払い不審者の発見に努めています。

いくら平静を装っていても、悪いことを企んでいる人間は必ずどこかに不審な兆しがあり、目や表情にも必ず心理状態が現れます。これは人間としての証でもあります。私は、これらの予兆を見逃す事のないように細心の注意を払いながら、常に目を光らせ巡回や声掛けを行うように心掛けています。特に、「声掛け」は防犯管理者という今の私の立場では、伝家の宝刀ともいえるべき不審者発見の有効な手段であります。



しかし、私1人の力では、僅かな力にしかありません。就勤時の指示等を含めあらゆる機会を通じて、関係職員や警備員に細大漏らさず情報共有を行い、どんな些細な事でも気軽に話し合える風通しの良い職場環境の醸成に努めています。「1人よりも2人の目、2人よりも3人の目」というように、チーム一丸となって警戒網を張りめぐらし、積極的に声掛けを励行することによりマンパワーがいかに発揮され、大きな安全安心力につながると思っています。要は、「この病院を絶対に守る」という気概が大切だと思っています。

防犯管理者に着任してから、これまでに様々な事案が発生し対応してきました。管轄する印西警察署と連携し逮捕に至った事案としては、器物損壊事件、盗撮目的の建造物侵入事件、窃盗事件がありました。また、保護が必要な患者さんの対応事案もありました。その他にも不測の事態に備え様々な場面に立ち合ったり、行方不明患者さんの手配、捜索等々様々な事案に数多く対処させて頂きました。本当にどれひとつとっても同様なものはなく緊張の連続でしたが、誠心誠意を持って接することが最善の方策だ、と思ってきました。これからもその思いに変わることはありません。

警察時代から、私が信条としてきた言葉があります。吉田松陰の「至誠天に通ず」という言葉です。誠を貫き力を尽くせば、必ずその思いは天に通じ願いが叶う、という意味です。これからも日々この言葉を胸に刻み、当院の安全安心の為、力を尽くしていきたい、と思っています。

吉田松陰

1830.9.20 - 1859.11.21

中国の儒学者・孟子が説いた「至誠通天」の思想を教えていました。



手術安全へのMEの取り組み - チームダヴィンチ -

臨床工学技士 黒田 潤

ME … “ Medical Engineer ”
の略で、院内で医療機器を扱う
「臨床工学技士」を指します。

「**ダヴィンチ手術**」はSurgeon Console (SC: 医師が鉗子操作を行う)、Patient Cart (PC: 患者さんとドッキングするロボット本体)、Vision Cart (VC: 3D画像処理や制御を行うコア) で構成され、PCに接続した硬性腹腔鏡と3本のアーム操作により行う低侵襲のロボット支援手術です。低出血、術後疼痛緩和による入院期間の短縮が可能とされておりま。 (写真右)

昨年9月に導入され、10月には泌尿器科の鈴木部長による主導のもと、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術 (Robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy: RALP) の初症例が実施されました。

私たちMEも医師、看護師、事務部門など多職種で結成された「**チームダヴィンチ**」に医療機器の管理面から参加させていただき、MEの視点から使用可能な手術環境を整え、定期点検スケジュールの策定、導入後は使用前点検、使用后点検、手術中のトラブル対応などダヴィンチ導入時に行った安全対策と業務内容をご紹介します。

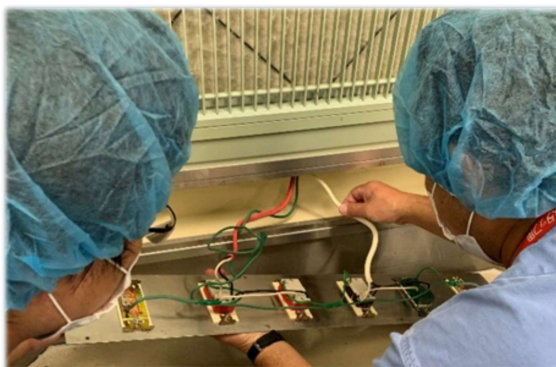


「ダヴィンチ手術」
で使用する機器です!

1. ダヴィンチが安全に使える 手術環境の確保

- ・ダヴィンチは高度な医療機器であり、使用電力が多く、単独電源が必要です。
 - ・延長タップの使用は原則禁止です。
 - ・機器により電源ケーブルが短いことがあります。
- ⇒ 看護部、資材課、エネルギーセンターに協力を依頼し、コンセントの増設と、既存のアースピンを有効利用して、使用可能な3Pコンセントへの変更を行うことで、必要な電力量を確保し、部屋の改修工事費 (数千万円) を数万円に削減することができました。 (写真左・下)

機器に必要な電力を確保したうえで、看護、麻酔の邪魔にならない配置の決定をします。



手術室でのコンセント増設工事後の確認作業の様子です。

2. 点検計画の策定

- ・高難度医療申請時や、病院機能評価では点検スケジュールと日常点検記録の保管が必要です。
- ⇒ 点検計画書を作成し、必要時は庶務課へ提出する等、日常点検記録の管理を行っています。

コンセント増設後の状態です。



3. 手術前の準備

- ・超高額機器のため、予備部品の準備が困難であり代替がききません。専門のエンジニアでなければ修理が行えない部分が多く、当日対応には限界があります。
- ⇒ チームダヴィンチにて、原則前日準備の必要性を共有し、手術室看護師と協力します。問題があればすぐにメーカー担当者へ連絡する体制を確立し、手術当日も使用前点検を実施します。

4. 手術中の安全確保

- ・ダヴィンチはPC、VC、SCが直径1.5cm程の光ケーブルで接続され、常に高速通信を行っています。
- ⇒ 光ケーブルは折れやすく保護が必要なため「保護カバー」を設置しています。右写真は、保護カバーを開けたところです。



5. 術後の機器点検

- ・使用後は格納庫に移動させます。
- ⇒ 衝突による故障や破損を防ぐため、使用後はすみやかに格納庫に移動させます。特にPCは緊急時の駆動バッテリーが備わっているため、チェックリストに従い点検し、必ず充電状態の確認を行います。

6. 共有マニュアルの整備

- ・多職種が業務を安全に行う為に必要不可欠なものです。
- ⇒ 実施する手術室により部屋の形状が異なることや、術式により体位が異なる為、新規術式の際には多職種でマニュアル化し、対応します。緊急対応マニュアルを手術室に掲示することで、各業種の役割を把握します。

今回は、鈴木部長主導のもと「安全に手術を成功させる」という共通目標を持った多職種チーム-チームダヴィンチ-における医療機器安全管理業務のご紹介となりました。が、ダヴィンチ以外にも多種多様な医療機器があります。医療機器を使用するすべてのスタッフが、安心安全に使用できる状態を保つこと、それが私たちMEの機器管理業務と心得ております。

医療機器の安全管理の担い手として、今後も誠心誠意業務に取り組んでまいります。

編集後記

ニュースレター第46号をお読みいただきありがとうございました。

さて、第46号が発行される頃は、コロナ禍での2度目の夏となります。皆様、暑い中いかがお過ごしでしょうか？ワクチンの接種が進んでいるとはいえ、マスクの着用を心掛けていることかと思えます。マスクをしていると口の周りの温度が2~4度上昇するという報告がございます。月並みですが、熱中症にはくれぐれもご注意ください。熱中症への対策といえば睡眠、バランスの良い食事、水分補給などが挙げられます。それと、もう一つ重要な対策があります。それは涼しい環境下での適度な運動です。発汗には体温を調節する働きがあるため、運動により代謝を上げ、汗をかくことが重要となります。東洋医学の諸説によると、夏に冷たいものを飲みすぎたり、エアコンの効いた部屋に長時間いると、体を冷やしすぎてしまいます。そうすると屋外との気温差で風邪をひいてしまったり、自律神経の調節がうまくいかず、体がだるくなることがあると言われています。これは秋口に夏バテの原因にもなるようです。

皆様、くれぐれも体調管理には気を配り、コロナ禍の暑い夏をしっかりと乗り切りましょう！ 大熊康弘 記

【編集担当】

医療安全管理ニュースレター編集委員会

【ご意見募集】 皆さまのご意見をお待ちしております。

電子メールアドレス h-newsletter@nms.ac.jp

【お知らせ】 当院のホームページから閲覧できます。

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/>